

子どもたちの明日

Children, Our Future

2013年12月 **108号**

目次

- ・タケオ州の「村の幼稚園」この頃 1頁
- ・支えよう、農村女性の織物生産と自活への道 2頁
- ・盛り上がる「布チョッキン」運動—高校生のカンボジア研究を通して 3頁
- ・大震災と原子力発電所事故、そして子どもたちの明日 4頁



カンダール村幼稚園 10月の朝。先生に注意されても、カバンを背中から放したがる子どもが何人か見えます。

タケオ州の「村の幼稚園」 この頃

開園後三ヶ月の様子

今年8月の開園当時、子どもたちは幼稚園がどんなところか知らず、初めて会った笑顔の先生たちの手拍子に見とれていました。今ではすっかり幼稚園に慣れ、自分から絵本を持ち出して見入ったり、抱いた人形を手放さずに遊んでいます。9月初め、日本からお客さんがつぎつぎ訪れました。スタディツアーでやってきた「CYR あいち」と「自治労福岡」のメンバーです。子どもたちは珍しがってお客さんに歌をいくつも披露し、嬉しそうに一緒に遊んでいました。歌はあまり上手ではなかったけれど半月でこれくらいできれば上出来、と先生たちはほっと一息ついていました。

お盆休みと祭日が続いて

さて9月と10月はお盆休み(5日)と

祭日が4日もあって、子どもの欠席が目立ちました。この時期、信仰心の厚い人たちが、仏陀の護りを受けて平安に暮らせるようお寺参りに出かけ、先祖や縁者を偲んで食物やお金を寄進します。詣でお寺が多いほど、良い年になるといわれるので、子どもたちも親と一緒に出かけます。困るのは保育者が病気で休むと、代理の先生に馴染めない子が園を休むことです。欠席する子が増えた機会に、各幼稚園の実態を調べることにしました。調査に当たったのはCYK職員と、保育歴20年の保育者2名でバンキアンとプレイタトゥ保育所のリーダーです。

カバンは宝もの

わかったことはいくつかありました。それは集団生活に慣れない子どもの問題というより、二ヶ月間の研修しか受けていない保育者の経験不足が原因でした。たとえ

ば、自由遊びの時間に遊具、教材の用意がない。テーブルとゴザの使い分けをしない(子どもが遊びを選べない。教材を大切に扱わない)。教え方が子どもの興味を惹かない。子どもが保育者に注意を払えない。また、カバンの置き場所を用意しないので、活動の邪魔になる、という指摘がありました。これは、子どもがカバンを宝として大切にしており、注意されると一時は手放しても、すぐまた背負って片時も傍から離しません。「宝とはそれと思う気持ちが宝」なのだ、子どもに教わりました。

より良い保育環境に向けて

今後は保育者が慣れるまで、毎月、各園のモニター・研修・話し合いをする予定です。また各村の村長、副村長、保護者代表、保育者が参加する運営委員会が、保護者に協力を呼びかけ、3年後の自主運営への道を固めることにしています。

CYR ボランティア便り

支えよう、農村女性の織物生産と自活への道

カンボジアの織物展 - 北鎌倉・東慶寺ギャラリーと麻布・正光院客殿にて

秋の気配が漂う二つのお寺で、仏教にゆかり深いカンボジアの絹絵緋や、これもブノンペンから届いたばかりの草木染・織物の展示即売会が開かれました。10月、11月と続いて開かれた二つの展示会場を彩ったのは、自然界の色を取り出して丹念に染め、織り上げた絹絵緋や木綿の織物です。訪れた人は、CYRのDVD「カンボジアの伝統織物ができるまで」を見ながら、糸の束を染め、緋布に織り上げる根気強い作業に、感嘆の

声をあげていました。樹皮を砕き果実から色を汲み出す草木染めは、美しい色を求める人々を惹きつけて止みません。二つのイベントは、CYR ボランティアによる参加、および自主企画で、目的はカンボジア・タケオ州の織物研修センター（CYK）で伝統技術を学びながら自活の道を拓こうと励む、貧しい農村女性たちへの支援アピールです。

右上：於北鎌倉・東慶寺ギャラリー 右下：於麻布・正光院客殿



DVD「カンボジアの伝統織物ができるまで」から

写真1：生糸は煮て膠質（にかわしつ）を取り除き、光沢を出す。写真2：ラック（貝殻虫の体液の固形）の染液はカンボジア織物では代表的な色。写真3：自然素材の手作りなので、少しずつ違う個性を持った色合いになる。写真4：水で綺麗に洗った糸を乾かして、ほくしながら巻き取る。写真5：プロファー（木）の樹皮で黄色に染める。写真6：たて糸は一色で染められ、よこ糸に模様が染められる。写真7：染めの材料である木の樹皮を削る。湿った土を塗り、枯れないよう保護する。写真8：括り糸を解いた部分は黄色に染まり、ラックで染めた部分はプロファーを重ねた色に。写真9：カンボジアの織り手は、色の暗い裏面を見ながら織る。写真10：染め1回目 ラック+タマリンド。発色を良くして、色落ちを防ぐ。写真11：3色めはチョンブー（木）の種を使う。こうして手間をかけてよこ糸は染められる。写真12：完成した織物では、15束のよこ糸によって描かれる模様が繰り返される。

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



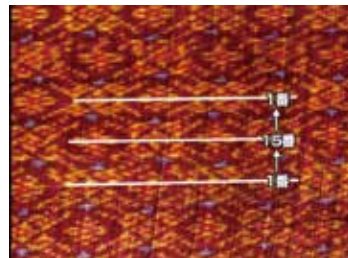
写真10



写真11



写真12



盛り上がる「布チョッキン」運動

— 高校生のカンボジア研究を通して

11月初め、慶應義塾高等学校の文化祭で、大掛かりな研究発表がありました。同校二・三年生有志がまとめた、カンボジアの歴史、教育、文化、言語、産業などをテーマにした、54頁の大冊「カンボジア研究プロジェクト」です。会場では幼い難民を考える会の活動紹介もありました。会場になった教室では、生徒が来場者に呼びかけて「布チョッキン」募金とボール用の布切りをしてもらい、また自分たちで販売用に選んだカンボジア織物製品も完売しました。次のコメントを寄せた5名のメンバーは、来年2月、現地を訪れる予定です。事務局では、現場を見た若い人による新しい支援のアイデアも期待しています。

・布チョッキンは、目の前にある布をボールにする手伝いをするというシンプルな仕組みのボランティアで、文化祭などでカンボジアについて何も知らない人にでも趣旨を伝えやすい、とても良いアイデアだと感じました。現地に行ったら、おもちゃの他にも何か、僕たちでもできることがないか、見つけてみようと思います。(TS)

・自分は学校でおこなっているカンボジ

ア・プロジェクトを通じて、布チョッキンを知りました。実際に文化祭でおこなって、様々な人が実はボランティアに興味を持っているんだと感じました。スタディーツアーで実際に行くときは、自分たちの活動がどう生かされているか見たいです。(SN)

・布チョッキンは、募金だけでなく自分で布を切ることで、自分が協力することの意味を強く感じる事が出来る点が素晴らしいと思いました。文化祭では多くの方に協力いただけたことが嬉しかったです。今後、僕たちにどんな支援が出来るのかを考えていきたいです。(TK)

・幼い難民を考える会について調べてから布チョッキンを知った。日吉祭では布を切ってもらっただけでなく、布と募金がどのようにカンボジアの人々に役立てられるのか詳しく説明することができた。現地では今後の日吉祭での布チョッキンに役立つことを吸収したい。(KT)

・来場者の方に短時間で説明をする必要があるため、手順の書かれたプリントを作



上:募金のおかげで保育者研修が続けられます。
下:縫い上がったお人形が届いて、大喜びの子どもたち。小林正典氏撮影。

成しました。このようなものをCYRの方々に作っていただけるとありがたいです。また、ボールを縫っている現地の女性の写真などがあれば、より来場者の方に理解していただけたかと思います。(TN) —アイデアをいただいて、わかりやすいプリントを用意します。(事務局)

カンボジア研究をまとめ、その発表をした生徒たち。



教室の壁に展示された、CYRの活動資料。



大震災と原子力発電所事故、そして 子どもたちの明日

松林とカモメ、それにコスモスを町のシンボルにしてきた福島県浪江町は、沿岸部を太平洋の波が洗う美しい町でした。少なくとも、激しい地震と広域を洗い流した恐ろしい津波、そして安全とされた原子炉爆発事故の影響で、立ち入り制限地区となるまでは。

大惨事2年半後のいま、炉内事故処理が進むと同時に伝えられる深刻な事実が、帰りたくても自宅に戻れず、仮設住宅で暮らす人びとや、ふるさとを離れざるを得なかった人たちの将来を脅かし続けています。それにも拘わらず、人びとは前向きに生きようと懸命です。うれしいことに、子どもたちも避難先で元気に育っています。当時の幼稚園児はいま小学校2年生、3年

生です。被災した浪江町刈野幼稚園、元園長中野優子さんは、前例のない惨事を生き抜いた親子の記録作りを、保護者に呼びかけました。ご紹介するのは元園児のお便りで、CYRが被災地支援募金を活かし、刊行をお手伝いする文集の一部です。

みなさん元気ですか。ぼくは元気です。なみえ小学校でたのしくべんきょうしています。じしんはこわかったです。かりのようち園では、絵本を読んだり思い出がたくさんあります。がっこうのべんきょうは、国語が好きです。なみえ小学校は人数がすくないですが、なかよくしています。えん足でスカイツリーに行きました。たくさん



浪江町立刈野幼稚園 ©2013 Google, ZENRIN

の方が、今でも学校でいろいろな活動をしてきています。本当にありがとうございます。ぼくはなみえ町が好きなので、一日も早く元のなみえになってほしいです。学校でも、こんななみえ町になってほしいと、みんなでべんきょうなどしています。ぼくはまだなみえ町に行けません、行けるようになったら、かりのようち園や思い出の場所に行ってみたいです。これからがんばって、べんきょうします。みなさんががんばってください。(福島県双葉郡浪江町浪江小学校2年生)

CYR イベント情報

12月19日(木) 18時
小コンサート 幼い難民を考える会のために
グレゴリオ聖歌による降誕前夜のミサ

主催：CANTATE DOMINO
場所：聖心女子大学聖堂 渋谷区広尾 4-3-1
地下鉄日比谷線「広尾駅2番出口」徒歩3分

12月20日(金)・21日(土) 10時30分～17時
ラタナ(カンボジア織物ショップ)クリスマスセール

場所：幼い難民を考える会 事務所内
地下鉄有楽町線「護国寺駅5番出口」徒歩7分
池田ビル3階



- ① 地下鉄有楽町線護国寺駅5番出口を出て、左へお進みください。
- ② ゴルフショップのある角を左折し、更に突き当たりを右折してください。
- ③ 直進して十字路を渡ると、左手に上のような門が見えますので、中へお入りください。事務所は3階にございます。

広報資料貸出のお知らせ



リーフレットや写真パネル、DVDなどを配布・貸出いたします。
詳しくは www.cyr.or.jp/news/post_145.html を御覧ください。



子どもたちの明日 108号

発行日：2013年12月11日 発行人：深水 正勝

特定非営利活動法人 幼い難民を考える会
〒112-0013 東京都文京区音羽 1-10-4 池田ビル3F
TEL：03-3943-6971 FAX：03-3943-6973
E-mail：info@cyr.or.jp URL：http://www.cyr.or.jp

幼い難民を考える会 (CYR) は認定NPO法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。

事務局からのお願い

会員の皆さま、日ごろのご支援に心より感謝申し上げます。
会費の納入がお済でない方は、よろしくご手配をお願いします。